



「光るニューロン」の概要について

◆提案代表者

京都市立芸術大学美術学部 教授 野村 仁(のむら ひとし)

◆実施概要

<きぼうでの実施>

ハイビジョンカメラを用いて宇宙飛行士や、そこから見える宇宙空間を撮影する。

<地上活動>

宇宙から既に回収したハイビジョンカメラを用いて地上でも身近な映像を撮影する。

地上での映像ときぼうでの映像を編集した作品を制作する予定。

◆背景

太陽や遠い宇宙から運ばれてくる、さまざまな宇宙放射線。

その宇宙放射線から地球上の生命を守っているのは、大気です。静かに、まるで母親のように地球を抱く大気存在は、地球大気圏外である宇宙で生きることの難しさを意味しています。

しかし、人類は大気圏外にある国際宇宙ステーションでの長期滞在を可能にし、宇宙空間に人類が存在することの困難を英知と努力によって克服してきました。人類の持続的発展のためには、地球をさらに深く理解するとともに、果敢に挑戦しようとする姿勢が不可欠です。その想いを、宇宙で取得した映像をまじえて表現します。

◆このテーマに対する野村先生のことば

宇宙飛行士は、スペースシャトル内で網膜を経ない光を見たと言っています。宇宙放射線が視神経にヒットしたからです。人体だけでなく宇宙放射線は、各種機器に影響を及ぼしますが、例えばハイビジョンカメラのCCDには白傷を残しています。そのようなCCDカメラを用いて、宇宙放射線をテーマに、地球の尊さや人が宇宙の人工空間に在るためには、なお克服していかなければならないと思われる点などの映像化を目指します。



野村 仁教授



ISSで以前撮影された地球大気の写真

* ニューロンとは神経細胞のことを意味します。